



教育委員会(県・町)、及び学校運営協議会の学校訪問がありました

6月13日(火)は、「要請による学校訪問」と呼ばれる県教育委員会、町教育委員会、学校運営協議会委員等の方々をお招きして、終日に渡り授業を参観いただき、本校の教育活動についての指導・助言をいただく日でした。これは、香川県下のすべての小・中学校で年1回実施されているものでもあります。訪問された総勢26名の方々に、本校の学校経営について説明するとともに、1～5校時にかけて全学級、全教職員の授業を公開しました。

この日を迎えるにあたって、本校の教員は4月から授業の構想を練り、「学習指導案」と言われる指導計画を作成したり、板書の計画を立てたり、授業の展開の仕方を試行錯誤したりしながらこの日の授業に臨みました。放課後に行われた会合では、本校の教員の授業づくりへの真摯な姿勢に対して高い評価をいただきました。

また、生徒会専門委員会では、「学習委員会」が教室内の整理・整頓や身だしなみについて、「環境委員会」が「SC(スクールグリーン)マイスター」と称した美しい環境づくりについて、それぞれに取組を展開し、子どもたちは「お客様を迎えるにはお客様のお迎えの仕方がある」ことを学ぶことができたと感じています。

また、この日の夕刻には、学校運営協議会を開催し、地域住民・保護者の視点からこの日の様子についてのご意見・ご感想をいただきました。以下に、その一部を紹介します。



- 楽しい雰囲気での授業が行われていた。
- グループ活動を取り入れることで、自ら発言しづらい生徒も、グループの輪の中に入って活動に参加する機会が増えていた。
- 挙手して発表する生徒は、はきはきと発言ができていた。
- 内外の環境がよく整っている。
- 授業の中の各種の仕掛けがよく活きており、班や集団で活動することで、一層教育力が高まっていた。
- 個々の学力差はあるが、それに対する手立てができていた。
- 教員のはつらつとした姿勢に子どもたちが応えている。授業の楽しさや雰囲気のよさを感じた。
- 教員と生徒の関係や雰囲気の良さを感じた。子どもたち同士が、互いに高め合っていたり、学び合っていたりしている。
- 統合後、集団としてのまとまりが深まり、前向きに学校が進んでいるように感じた。その姿を嬉しく思うし、ほっとしている。
- 子どもたちが活発に意見交換をしている様子を見て、集団で学ぶことの意義や大切さを改めて感じた。
- 4月の授業参観時と比べると、板書の計画もよくできており、教員の成長も感じられた。
- 生徒間の意見交換が活発だった。
- マスクをしていないせいも、教員が楽しそうに授業をしているように見えた。反面、マスクをしている生徒の様子を見ると、発言の際の語尾が尻すぼみになっているように感じた。もう少しマスクを外してもよいのではとも思うが、自主的な判断に任せるとなるとやはり難しいのだろうか。体調管理が心配なので、マスクを外す生徒がもっと増えるようになってよい。
- 理科の実験では、子どもたちは真摯に取り組んでいた。真面目な学習態度が浸透している。楽しんで授業に集中できているのはよいと思う。
- 子どもたちの学校生活の1日を体験した。良い1日のサイクルができています。
- 机と椅子の高さを学期に1度は点検をしてほしい。男子生徒の猫背が気になった。「立腰」という言葉もある通り、足裏をしっかりと床につけないと食事さえきちんとできないのではないかと。

このようにたくさんの示唆に富むお話をいただきました。令和5年度は、まだ2か月が経過したばかりです。残り10か月、そして次年度以降も含めて、教育活動の更なる充実を目指して引き続き研鑽してまいります。